令和４年度　秦野総合高等学校（定時制）学校評価報告書　目標設定

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	①生徒が主体的に学習に取り組み、分かることが実感できるような、組織的な授業改善を推進する。 ②外部の教育資源を活用した幅広い教育活動を展開する。	①ICT を利活用した組織的な授業改善を進め、教育力を向上させる。学び直しを通じて生徒の基礎学力を定着させ、主体的に学ぶ姿勢を身に付けさせる。 ②地域の教育機関の人材資源を活用し、多彩な教育活動を展開する。	①ICT に関する研修会を実施し、生徒が主体的に学びたい科目を選択し、興味・関心や進路希望等に応じた効果的な学習を可能にする。 ②地域に在住する経験豊かな人材や地域の様々な校種と連携した教育活動を実施する。	①生徒の授業への参加率を向上させ、生徒による授業評価の項目「できるようになった実感」を向上させたか。 ②地域の教育資源と連携した科目を設定し、適切な方法で生徒たちに広報し生徒が意欲的に取り組んだか。
2	生徒指導・支援	①一人ひとりの生徒の状況掌握と情報共有によるきめ細かな指導体制を推進する。 ②自己肯定感の醸成による問題行動の未然防止に努める。	①　生徒を取り巻く環境や課題を的確に把握し、外部機関との連携を図りながら解決にあたる。 ②研修やケース会議を行い、支援のあり方について職員の共通理解を深める。また、生徒一人ひとりの自己肯定感の醸成に向け、個に応じた対応をしていく。	①授業や面談等で生徒の教育的ニーズを的確に把握し、ＳＣやＳＳW等と連携しながら、きめ細やかな支援を行う。 ②　職員研修を充実させ、職員一人ひとりが生徒理解、支援につながる知識を深め、個々の生徒の情報共有し、特性を把握することで支援の充実を図る。	①支援の必要な生徒に対しては「個別の生徒支援シート」を作成し活用するとともにケースに応じてＳＣやＳＳW等と連携することができたか。 ②生徒の教育的ニーズに対応したケース会議や研修を定期的に開催し、支援方針を共有することで個に応じた支援をすることができたか。
3	進路指導・支援	①一人ひとりが必要とする情報を提供し、進路意識を向上させ、目標を達成するための基本的な学力を向上させる。	①　進路に向けた目標を自ら設定し、それに向けて努力する姿勢を身に付けさせる。	①ティームティーチングや学習支援員を活用した効果的な教科指導を行うことで、基礎学力を身に付けさせると共にガイダンスを実施することで進路に対する具体的なイメージをもたせる。１年次選択科目（国語基礎、数学基礎、英語の世界）を効果的に活用する。	①ティームティーチングや学習支援員を活用することで基礎学力を身に付けさせることができたか。また、自らの進路に対する具体的なイメージを持たせることができたか。

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
		②社会人としての自覚を身に付けさせ、望ましい勤労観を醸成する。	②社会人として必要なコミュニケーション能力やマナーを身につけ、働くことの意義を理解できるようにする。	② ハローワークと連携や「産業社会と人間」「職業一般」の授業を通して労働法やマナーを指導する。	②生徒たちに労働法についての知識やマナーを身に付けさせることができたか。
4	地域等との協働	①保護者や近隣地域との協力体制を推進し、教育活動を積極的に外部に発信する。	①地域清掃等の地域貢献活動によって、近隣地域に信頼される取組を進める。	①生徒の地域貢献活動等へ積極的参加を促し、地域社会の一員としての自覚を醸成する。	①地域清掃等の活動に生徒が積極的に参加し、ボランティア精神や社会性が高まったか。
5	学校管理 学校運営	①職員の学びあいによる人材育成を推進する。 ②外部連携による総合学科高校としての充実を図る。	① 職員構成に応じた適切な業務分担を行うとともに、引継ぎを工夫する。 ② 外部の教育機関との連携を通して、総合学科の特色を生かした教育活動の充実を図る。	①職員構成に応じた適材適所の業務分担を行い、事故不祥事を防止する。 ② 外部の教育機関と連携した魅力的な科目を設置し、適切な広報を行い、充実した教育活動を展開する。	①業務分担を工夫することによって事故不祥事ゼロを継続することができたか。 ②外部の教育機関と連携した魅力的な科目を開講し、充実した教育活動を展開できたか。